

令和6年度 第1回 やさしさの連鎖会議（会議録）

日 時：令和6年9月26日（木）16:00～19:00

場 所：川崎市役所本庁舎 復元棟 301会議室

出席者：成田委員、田中委員、中村委員、高木委員、岡本委員、近内委員、丸子委員、成澤委員、ストウ委員、今村委員

出席者：中村茂氏（やさしさの連鎖会議開催運営等要綱第4条第2項に基づき出席依頼）

傍聴者：なし

<会議内容>

開会 事務局より開会挨拶

川崎市におけるパラムーブメントの取組を紹介。また、今後も市民に障害の社会モデルや心のバリアフリーの理解を広げていくためにどんなアクションが必要なのか、バリアフリーに関する様々なフィールドで活躍する委員10人と考えていて本会議が企画された旨の説明が行われ、参加した委員らのスキルや経験を本会議に活かして欲しいという意図や、今後委員らに期待することについて共有した。

アイスブレイク1 ストウ委員

ほぼ初対面同士で肩叩きをしようとすると遠慮がちになり弱めの叩きになってしまい、叩く強さを相手に尋ねながら調整することで、個々人によって適切な強さが違うことを複数人とペアを入れ替えて行うことで実感として感じられるアイスブレイクワークを参加者全員で実施した。

アイスブレイク2 委員相互インタビュー

各委員の経歴や普段の取組について取材、記事として仕上げ、その記事を事前に各委員に読んでもらい、さらにその記事をもとにそれぞれの強みやスキルなどを相互にインタビューすることで、お互いへの理解を深めてもらうことを行なった。自分の強みを活かしたことによって最高の体験をした経験や、強みを最大化することによって委員として川崎市と一緒にできるかもしれないこと、などを相互に語ってもらい、段ボールボードに貼り付けておいた記事に付け加える形で付箋に加えてもらった。

話題提供1 中村茂氏

「かわさき希望のシナリオ」は、2028年の川崎市を目指す、多様なつながりや居場所「まちのひろば」を創出し、幸福度が高く、誰もが認められる持続可能な都市型コミュニティをイメージして作成されたものである。作成当時の2019年に「コミュニティ施策の基本的考え方」を策定し、その基本理念に「市民創発」の概念を盛り込んだ。川崎市各区で開催した市民検討会議ワークショップ等から、市民からの意見を基に2年をかけて作成した。従来の行政は、計画を立て予算措置と職員配置を行うことが中心だが、市民との対話と協働が重視されるようになり、行政と市民が同じ立場に立ち、対等な関係を築くことを重視して検討が進められ、その成果として「かわさき希望のシナリオ」イラストが完成した。その後この考えをもとに川崎市ではソーシャルデザインセンターの配置などが進められてこととなる。

話題提供2 事務局

アイディア出しの参考に川崎市および世界的なユニバーサルや福祉に関するメガトレンドについて、以下の話題や情報を共有した。

- かわさきパラムーブメント意識調査について

- 2021年度「ダイバーシティ&インクルージョンに関する意識調査」を実施
- 新空港線（蒲蒲線）の第一期整備と蒲田駅周辺におけるまちづくり
- ヒトとテクノロジーの共生、様々な繋がりがもたらす新たな創造
- I C F（国際生活機能分類）－「生きることの全体像」についての「共通言語」－
- 事業者による障害のある人への「合理的配慮の提供」が義務化
- 世界を惹き付ける巨大都市圏、快適な暮らしを支える街
- How to build back better with a 15-minute city

アイディア出しワーク1

テーマ：みらいの「寛容なまち川崎」で起こっているコト・モノ・サービスを作れるだけLEGOで作成

具体的にでたアイディア（27件出たうちの一部を紹介）：

- バーチャルパーク
- だれでも小・中学校
- オープンにやり直せる町
- ここだけ空気が違う領域
- 風を感じる街
- みんなのギター
- 街の音楽スポット
- 移動に困らないまち

アイディア出しワーク2

テーマ：新聞記者になってみらいの川崎の記事を執筆

具体的に出た新聞記事のタイトル（9件）：

- DE&Iでがっぽり幸福度日本一になりました
- 2050年見守り隊多摩区西生田商盛会
- 解決！！おとなりさんの困りごと
- サスティナビリティ音楽ライブコミュニティ！！
- バーチャル自分でまちへの要望、他者への想像
- 駅前のひとつのライトが照らすのは未来のインクルーシブな川崎市の姿？
- 脱すマートシティ環境変容・行動変容が意識変容につながって実現した世界初の“寛容なまち”
- 食いつぱぐれないまち川崎
- 不便を愛でるー100ヵ所のたき火オープン

クロージング・挨拶 事務局

「不自由がないからやらない」ではなく、「楽しいことをみんなで考えよう」という前向きな思いが感じられた。仕組みづくりとしてさまざまなアイデアが出た中で、一つでも企画として実現することが起爆剤になり、また新たに地域が動いていくことにつながるのではないかと思っている。ここにいる委員が自信をもって活動されることで、何か一つでも企画が動いてくれるようなことにつながってくれればと感じた。

閉会

以上